

「地域に開かれ、地域とともに歩む学校をめざして」 ～学校・家庭・地域社会との連携・協働を通して～

奈良県香芝市

■ 活動名

二上コミュニティ

■ 関係する学校

香芝市立二上小学校

活動区分		コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部		1人	30人	20年度	有
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
基本データ		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

1 二上コミュニティ設立の目的

本校では、6年前より大規模な新興住宅地が開発され、児童数が倍増(810名)することで様々な課題が生じている学校である。また、子供たちの教育的課題を解決していくために、学校だけでは解決できないことが増えてきている。そこで、学校と家庭と地域とがこれまで以上に連携・協働していくことが重要と考え、すべての住民の力を活用して課題解決につなげるため、二上(ふたかみ)コミュニティ推進委員会及び各部会を設けた。

2 二上コミュニティ推進委員会の構成員

地域の自治会長、老人会の役員、育友会役員、地域住民、市教育委員会関係者、県教育委員会事務局関係者、及び学校職員

3 コミュニティ推進委員会各部会編成

本校の子供の実態かつ奈良県教育の課題を踏まえ、3つのプロジェクトと6つの部会で取組を行う。

(1) 学力向上プロジェクト【①基礎学力向上部会、②読書活動部会】 (2) 生活力向上プロジェクト【③生活安全部会、④勤労生産部会】

(3) 健康力向上プロジェクト【⑤体力向上部会、⑥食育健康部会】

4 各部会の主な取組

①基礎学力向上部会 学習マナーや姿勢のポイント(例:話の聞き方、発表の仕方、机上の整理、正しい姿勢等)の徹底を図っていくために重点ポイント内容の検討や実施方法を考案。

②読書活動部会 図書ボランティアを中心とした読み聞かせや読書環境の整備の検討、読書を活性化していくための取組(読書貯金、手作りしよりのプレゼント等)の企画、実施。

③生活安全部会 挨拶の定着を図るため、登下校時の地域の方や保護者の関わり方を検討(声かけ活動マニュアル、顔見知り作戦等)。児童の意識の向上のための挨拶川柳の募集とその活用(ポスター等の作成)を検討、実施。子供の安心安全確保のために、通学路の再点検を実施し、「子ども見守り・声かけ活動」冊子を作成するとともに地域にボランティアを募り見守り活動を実施。

④勤労生産部会

地域老人会による野菜を植えるための畑の環境整備(畝たて、堆肥スペース、除草等)の企画・実施。老人会のメンバーによる栽培方法や堆肥のつくり方等、子供たちへの生産指導の実施。

⑤体力向上部会

体力向上に向け、学校での取組内容(大縄タイム、駆け足タイム、なわとびタイム等)を企画するとともに、二上山などの地域の自然を生かした取組を企画、検討。

⑥食育健康部会

「食」の大切さや食事のマナーを身に付けるため、「チャレンジ食事マナー週間」「二上農園収穫物を活用した取組」の企画、実施。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 運動会の実施方法…急激な児童数の増加と狭い運動場により、運動会の安全な実施と保護者の観覧マナーに関する課題が懸案事項となっていた。そこで、部会で、プログラム実施方法や保護者の観覧の方法、マナーの呼びかけの方法を検討し、立ち見席観覧及び最前列入れ替え観覧制等に平成24年度運動会を実施。
- 食事マナー週間…オープンスクールの期間を利用し、食育に関する講演会を開催。児童だけでなく、保護者にも食育について考える機会を設けた。また、学校(給食)と家庭(朝・夕の食事)が連携して取り組める内容と考えとともに、食事マナーの課題を検討。その意識付けのための「チャレンジ食事マナー週間」を実施。
- 安心・安全運動…生活安全部会で校区の子供たちに関わる安心・安全について意見交流を行い、児童が下校する様子や危険箇所等の確認を再度行なった。それらを基にして「子ども見守り・声かけ活動」冊子の作成と安心安全ボランティアの募集を含めた見守り活動の体制作りを行い、実施。
- 堆肥作り…勤労生産部会で本校の特色である地域の畑を利用した野菜作りについて話し合いを行ったところ、栽培だけでなく、そのもととなる土づくりの重要性が提起され、「二上農園」に堆肥を作る場所を設置するとともに、その意義を子供たちに伝え、堆肥づくりに取り組んでいる。

【実施に当たっての工夫】

- 学年・学校だけでなく、ホームページ、懇談会、授業公開等を通して、二上コミュニティの意義や取組について積極的に情報発信。保護者や地域と情報を共有し、共に子供を育てる学校づくりを目指した。
- 継続した取組が展開できる仕組みを構築するため、校務分掌上、これまで9つに分かれていた指導研究部を学力向上部、生活力向上部、健康力向上部の3つに統合・再編。二上コミュニティと学校組織が直接リンクし、連動しやすい組織編成にした。また、育友会組織にも二上コミュニティ担当を置き、スムーズな連携を図っている。
- 話し合いの内容が焦点化され、取組の実施にあたってみんなの力が集約され、また、問題解決の達成感が共有できるよう、関係者すべてが当事者意識をもって課題に取り組める活動を実施。

■ 事業を実施して

- 子供たちが、教員以外の大人たちと日常的に接することで、多様な価値観にふれ、たくさんの知恵を吸収できた。また、課題について、学校だけでなく家庭・地域と連携して取り組めたことは、子供たちの意識付けの効果を上げることができた。
- 保護者や地域住民が学校に来る機会が増え、子供たちの生の姿を見たり、学校の課題を具体的に理解したりすることができた。
- 様々な課題を異なった立場や職種の方々とともに考えていくことで、教職員自身が多様な物の見方や考え方に触れ、視野が広がれることにつながっている。
- 問題解決の達成感が共有できたことにより、参加者の当事者意識がさらに高まり、新たな課題についても主体的に取り組もうとする機運が高まってきた。
- 古くからの住民と、新しく転入してきた住民との意識の差が少しずつ薄れ、二上小校区の子供たちをみんなで守り、育てる気運が見られるようになってきた。

■ その他

- 次世代の地域の担い手である本校の校区に在住している大学生や高校生によるボランティア活動を取り入れ、地域人材の育成につなげた。
- 古くからの住民と新しく転入してきた住民のそれぞれの良さや知恵を取り入れながら、学校を拠点とした「地域コミュニティの形成」を通して近隣間のつながりを高め、保護者や地域住民同士の「横のつながり」を強めていきたい。
- 子供たちが日常的な地域の「大人」との関わりの中で、「やさしさ」や「厳しさ」を実感し、大人への強い信頼感を築けるようにしていきたい。
- 子供たちの挨拶運動が家庭や地域に広がり、二上小校区全体で挨拶が交わされるなど、子供たちの取組から発信する町づくりにも取り組みたい。



読み聞かせの様子(読書活動部会)



葉ポタンの植え替え作業(勤労生産部会)